

役員室 だより

平成23年度に係る業務の 実績に関する評価結果の公表

第2期中期目標期間の2年目となる平成23年度の業務の実績に関する評価結果が国立大学法人評価委員会から公表されました。

本学では、「スピード感を持って大学改革を実行することを目指した戦略的・意欲的な計画を定めて、積極的に取り組んでいる」と評価され、「業務運営の改善・効率化」「財務内容の改善」「自己点検・評価及び情報提供」の各事項については「順調に進んでいる」との評価を受けました。

また、課題として「研究費の不適切経理」「土地・建物等の処分及び有効活用」が挙げられ、「その他の業務運営」の事項については「やや遅れている」との評価を受けました。

なお、評価結果全文については、本学公式ウェブページに掲載しています。トップページから「評価結果」で検索してご覧ください。

理事・副学長（企画・評価担当） 恵比須 繁之

施設老朽化対策の実施

平成25年度より新しい制度のもと施設老朽化対策が実施されます。

施設老朽化対策は、施設の維持管理を将来にわたって計画的かつ持続的に大学の責任で実行していくための方策であり、「大阪大学未来戦略(2012－2015)－22世紀に輝く－」において未来戦略8箇条の一つに位置づけられています。

具体的には、各部局から要望のある建物の改修や建築設備の更新を実施するため、毎年、学内経費約5億円と国から措置される施設費交付金約1.5億円を合わせた約6.5億円を安定的な財源として確保します。

また、各部局からの要望事業を「老朽度」や「緊急度」等からなる評価基準に基づき評価して実施優先順位を定め、予算の範囲内で次年度実施予定事業を決定するとともに、今後5年間の年次計画を作成し公表することとしています。

制度設計にあたっては、部局の規模に応じた要求事業1件あたりの上限額を設定するほか、特定部局への事業の偏りを抑えるため5年間の実施事業総額の上限額を設定するなど公平性の確保にも配慮しました。

現在、各部局の平成25年度実施要求事業について、ヒアリングや現地確認を実施しており、平成25年度からの開始に向け準備を進めています。

なお、本件の詳細は、本学公式ウェブページのトップページから「施設老朽化対策」で検索してご覧ください。

理事・副学長（企画・評価担当） 恵比須 繁之

アウトリーチ活動の推進

大阪大学では、研究・教育の成果の市民向け発信、いわゆるアウトリーチ活動を支えるために、支援窓口である21世紀懐徳堂を中心に、プレスリリースを行う広報課、WEBやデザインを担当するクリエイティブユニット、関連ノウハウやデータの蓄積が豊富な大型教育研究プロジェクト支援室、展示やサイエンスカフェを手がける総合学術博物館、アートや科学コミュニケーションに強いコミュニケーションデザイン・センターの計6部門が連携し、他大学には見られないネットワーク型の支援体制を構築しています。最近、それら6部門の支援実務担当者および関係する理事補佐で編成される「大阪大学アウトリーチ戦略ワーキング」を立ち上げ、アウトリーチ活動推進に当たっての戦略提言をまとめました。その実現を通じてアウトリーチ活動が今後更に活性化し、個々の研究や教育の発信のみならず、大阪大学ブランドの向上など、本学の発展に寄与する効果を期待しています。

理事・副学長（広報・社会学連携担当） 江口 太郎



【アウトリーチ活動の例①】
第8回植物探検隊@秋の待兼山を訪れて(10月14日、28日)



【アウトリーチ活動の例②】
大阪大学×大阪ガス「アカデミックキング」vol.27(11月28日)

若手研究者支援の新たな取り組み

これまで、次世代を担う若手研究者の育成を目的として、「最先端ときめき研究推進事業」(平成22～26年度)「飛翔30」若手プログラム」(平成22年度)を実施しています。

この度、若手研究者育成の新たな取り組みとして、研究者としての国際的な視野を広げることを目的に、博士後期課程学生が研究成果を初めて学会等で発表する場合の外国旅費、学会等参加費、学会抄録集等の関連経費を上限25万円で支援する「若手研究者支援事業」を開始しました。

本事業は、大阪大学未来基金を財源にしていることから、年1回、寄附者への研究成果発表会及び交流会の実施を予定しています。これを通じて、博士後期課程学生のアウトリーチ活動として、研鑽の場としての効果も期待しています。

本学の使命の一つであるグローバル人材の輩出に資するため、本事業が博士後期課程学生にとって海外をより意識できる国際的な研究者としての第一歩となればと考えています。

理事・副学長(基盤研究・リスク管理担当) 相本 三郎

「平成25年度概算要求を読む会」及び「AAAS/Scienceのエディターによる講演会」を開催

10月20日(土)に、「平成25年度概算要求を読む会」を開催しました(主催:大型教育研究プロジェクト支援室)。本会は、来年度予算について必要な検討を早めに進めていくため、9月7日(金)に発表された各省庁からの平成25年度概算要求について、参加者が主体的に調査し、資料作成を行い、発表するという形式で行われたものです。当日は、各部署の執行部クラスの教員及び本部事務機構の部課長等29名の出席があり、高尾正敏特任教授・シニアURA(大型教育研究プロジェクト支援室)による概要説明の後、参加者自身による調査・資料作成、発表が行われました。調査・資料作成中や発表の際には、参加者同士の活発な意見交換等もあり、大変有意義な会となりました。

また、10月29日(月)には、AAAS(米国科学振興協会)/Scienceのシニアエディターである、Dr. Bryan Ray氏をお招きして「How to publish in Science」をテーマに講演会を開催しました。Science誌は掲載基準が厳しいことから、その権威は高く、学術界において高頻度で引用される雑誌の1つとなっております。本講演では、Science誌における論文の審査過程、同誌への掲載にあたってのアドバイス等を講演いただきました。当日は教職員や大学院生・学生150名の積極的な参加があり、講演後には活発な質疑応答が交わされました。

「大阪大学未来戦略(2012-2015)ー22世紀に輝くー」が掲げる目標を実行すべく、今後もこのような取り組みを通じて、様々な観点から研究支援を充実させ、本学の基礎研究を盛り立てていくことを目指してまいります。

理事・副学長(基盤研究・リスク管理担当) 相本 三郎



AAAS/Science シニアエディター Dr. Bryan Ray氏による講演会の様子

ダブル・ディグリーに関するガイドラインの策定

本学におけるダブル・ディグリー等に関する取り扱いについては、平成22年11月30日付け教育・情報室長通知「大阪大学におけるダブル・ディグリー、ジョイント・ディグリー等の取り扱いについて」により運用していたところですが、この度、ダブル・ディグリー制度に関し、各学部・研究科において実施する際の留意事項等をあらためて整理し、新たにガイドラインとして取りまとめました。(平成24年11月27日付け理事通知)

本学においては、昨年の5月に「大阪大学未来戦略(2012-2015)ー22世紀に輝くー」を作成し、その中の目標の1つとして、留学を支援する施策を充実させるとともに、地球規模での多様な人材により構成されるグローバルキャンパスの早期実現を目指すことを掲げています。

本ガイドラインの策定により、ダブル・ディグリー制度を活用しての外国人留学生の受入や日本人学生の海外派遣が、ますます促進されることが期待されます。

理事・副学長(教育担当) 東島 清

大阪大学紹介スライドのご案内

総長秘書室プロジェクトマネジメント・チーム(PMT)では、総長や理事・副学長が高校生や一般の方、企業の方などに、簡単に大阪大学を紹介するスライド(PPT)を作成してきました。

これを、学内の皆様にも是非ご活用いただきたく、マイハンドの下記の場所に近日中の掲載を予定しています。高校生への模擬講義の際など、機会がございましたらご利用ください。

マイハンドホーム>大学本部事務機構>プロジェクトマネジメント・チーム関係>大阪大学紹介スライド

《本件連絡先》

総長秘書室プロジェクトマネジメント・チーム(PMT)

内線 8809/7158

Email soumu-hisyo-pmt@office.osaka-u.ac.jp



【スライドイメージ例】※各スライドには、ノートに簡単な説明を付しています。

役員室だより

— 総長、理事・副学長がGLHS10校を訪問 —

優秀でやる気のある学生さんに大阪大学に来てほしい

これは、大阪大学で働く者なら誰しもが考えていることだと思います。

高大連携の取組は、これまでも多くの先生やスタッフの方が取り組んできましたが、大学全体としての動きにはなかなか結び付けることができていませんでした。

しかし、「生」の阪大を知ってもらい、高校生に受験情報ではない「大阪大学」を発信するためには、模擬授業や出張講義などを含め、高大連携の取組が非常に重要だと考えています。そのため、大阪大学は平成24年7月に大阪府教育委員会と連携協定を締結し、まず手始めに大阪府下の進学指導特色校（GLHS）10校へ、総長や理事自らが赴いて高校生と触れ合う機会を設けました。

今後、偏差値の枠を乗り越え、本当に『大阪大学で学びたい』と思う学生さんを増やすためには、現在頑張っている先生やスタッフの皆さんとともに、「生」の大阪大学を全国に発信すること続けていかなければなりません。

私たち大阪大学の構成員は、それぞれに目標を掲げ、日々多様な研究を行い、物事の本質を見極め世界に羽ばたく人材を育てることに邁進しています。

是非、高校生に学問の面白さや、先生方の教育研究にかける情熱、大阪大学の魅力を存分に伝え、優秀でやる気のある学生さんを大阪大学に連れて来ましょう。

また今回、私たちが各高校に訪問した際、大阪大学を簡単に紹介するスライド※をいくつか準備しましたので、皆さんにもそれらを活用していただければと思います。

理事・副学長（教育担当） 東島 清

今年度は6校の1、2年生と保護者、計2,585名に講演を行いました。



東島理事による講演
7月23日大阪府立北野高等学校



平野総長による講演会後の生徒との懇談会
10月19日大阪府立三国丘高等学校



相本理事による講演
10月23日大阪府立岸和田高等学校

【三国丘高校生徒さんの感想】

- ・私は将来博物館学芸員になりたいくて、文系に進もうと思っています。数学や化学が苦手で、理数科目に対して、後ろ向きに目をそむけて考えていました。最近は勉強自体に対してのモチベーションも下がってきていて、自分でもこのままではいけないと思っていたのですが、今日のお話を聞いて、今与えられているやるべきことに一生懸命取り組まなければ、将来の夢はかなえられないと感じました。
- ・僕は医学部志望なので今日の講演はとてもためになった。先生の話はとても面白くて、周りの人と一緒にずっと笑っていた。また、面白いだけでなく、一つ一つの内容がとても深いものだった。特に印象的だったのがブラックジャックの件だった。医者というものが「どういうものか?」と感じられる話だったので、将来自分が医者になったとき、人の命と向き合うときに、今日の話しが活かされればいいなあと思った。

{ 詳しくは、本学公式ウェブページから「高校との連携」で検索 }

※ 大阪大学紹介スライドのご案内は、21ページをご覧ください。

(総長秘書室プロジェクトマネジメント・チーム (PMT))

— 学内広報の効果に関するアンケート調査を実施 —

アンケートにご協力いただきありがとうございました

昨年11月下旬から12月上旬にかけて実施しました「学内広報の効果に関するアンケート調査」について、計2,154名の教職員の方から回答をいただきました。お忙しい中ご協力いただき、誠にありがとうございました。この場をお借りしてお礼申し上げます。

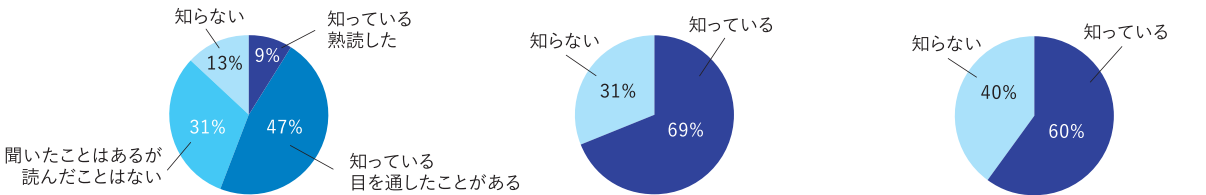
この度、アンケート結果の報告書を作成し、学内専用ポータル（マイハンダイ）に掲載しましたのでお知らせします。

本アンケートは、大阪大学の施策や方針等が構成員の皆様にとどのように伝わっているか、現状を把握するため実施しました。アンケート結果の概要としては、未来戦略等は大半の方が知っており、情報入手方法は会議等よりもウェブページや阪大NOWなどの広報媒体を用いている方が多いという結果になりました。

報告書には下記の表の他に、自由記述や職種別の傾向などを掲載しています。是非ご覧ください。

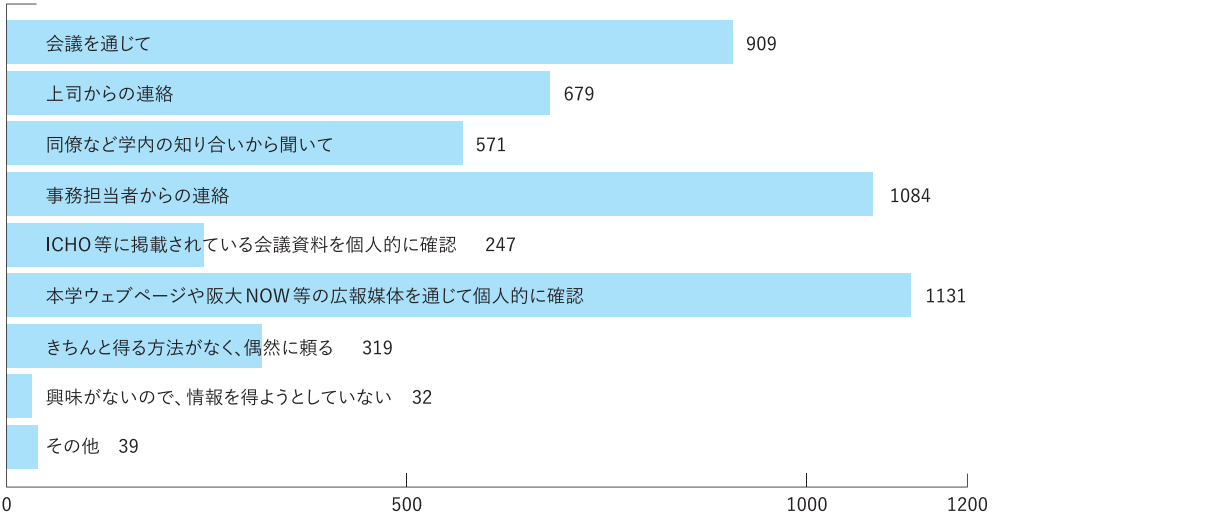
今後、今以上にウェブページを中心とした『見る人にやさしい』広報媒体の充実を目指しており、学内外に向けてより積極的な広報に取り組んで参ります。

理事・副学長（広報・社会学連携担当） 江口 太郎



「大阪大学未来戦略（2012～2015）—22世紀に輝く—」について
大阪大学未来戦略機構について
間接経費等配分見直し及び施設老朽化対策について

→詳しくは、本学公式ウェブページから「未来戦略」「間接経費等配分見直し及び施設老朽化対策」で検索いただけます



普段の情報入手方法（複数選択可）

{ 詳しくは本学公式ウェブページからマイハンダイにログイン
マイハンダイホーム > 大学本部事務機構 > プロジェクトマネジメントチーム (PMT) 関係
「マイハンダイホーム > お知らせ」からもご覧いただけます。 }

(総長秘書室プロジェクトマネジメント・チーム (PMT))